

防衛大学校教授による  
**現代の安全保障講座**  
(第28回)

主 催：全国防衛協会連合会



後 援：防衛省

協 賛：防衛大学校同窓会

(公財)防衛大学校学術・教育振興会

## 発刊にあたって

本書は、令和4年11月に開催した「防衛大学校教授による現代の安全保障講座」の講義録です。

全国防衛協会連合会は、平成6年に自衛隊発足40周年を記念し、防衛大学校の協力を得て広く一般市民を対象にした「安全保障講座」を開催しました。その後、本講座は、協会設立の目的である「防衛意識の高揚を図り、防衛基盤の育成強化に寄与する」ため、連合会の事業として毎年開催して参りました。

昨年末、新たな国家安全保障戦略など安保三文書が、閣議決定されました。

国際秩序は、パワーバランスの歴史的変化と地政学的競争の激化に伴い、重大な挑戦に晒されています。我が国は、戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面しており、我が国周辺では軍備増強が急速に進展し、力による一方的な現状変更の圧力が高まっています。特に中国は、我が国の尖閣諸島周辺における領海侵入や領空侵犯を含め、東シナ海、南シナ海等における海空域において、力による一方的な現状変更の試みを強化し、我が国と国際社会の深刻な懸念事項となっています。北朝鮮は、核戦力を量・質的に強化し、ミサイル関連技術も進化させ、従前よりも一層重大かつ差し迫った脅威となっています。ロシアは、ウクライナ侵攻により国際秩序の根幹を揺るがし、我が国周辺においても中国との戦略的な連携と相まって、安全保障上の強い懸念となっています。

我が国としては、主権と独立を維持し、領域を保全し、国民の生命・身体・財産の安全を確保することが重要です。一方、我が国の安全保障上の課題としては、サイバー空間、海洋、宇宙空間、電磁波領域等におけるリスクが深刻化しており、ゲーム・チェンジャーとなり得る最先端技術を活用した兵器の開発が求められています。

このような情勢の下で、日米同盟の抑止力と対処力を一層強化するとともに、我が国を守る一義的な責任は我が国にあるとの認識の下、刻々と変化する安全保障環境を直視した上で、我が国の安全保障上の能力と役割を強化することが重要です。その為には、現下のウクライナが示すように国民一人一人が、「自分の国は自分で守る」という強い気概を持つことは勿論のこと、我が国の防衛についての正しい認識と、適切な判断力を持つことが必要です。

このような時期に『電磁波領域における安全保障とアンテナ技術の基礎』及び『領土等問題アラカルト』という講義は、タイムリーかつ有意義でした。

本書が多くの皆様に読まれ、防衛問題に関する認識を深める一助になることを願っています。

令和5年3月吉日  
全国防衛協会連合会

## 目 次

- |   |                           |    |
|---|---------------------------|----|
| 1 | 「電磁波領域における安全保障とアンテナ技術の基礎」 | 1  |
|   | 防衛大学校 電気情報学群 電気電子工学科      |    |
|   | 教 授 道下 尚文                 |    |
| 2 | 「領土等問題アラカルト」              | 8  |
|   | 防衛大学校 防衛学教育学群 戦略教官室       |    |
|   | 准教授 中澤 信一                 |    |
|   | 参考「防衛大学校の教育の概要」           | 32 |

# 「電磁波領域における安全保障とアンテナ技術の基礎」



防衛大学校 電気情報学群 電気電子工学科

教授 道下 尚文

2004年 防衛大学校助手  
2006年 カリフォルニア大学ロサンゼルス校客員研究員  
2007年 防衛大学校助教  
2012年 防衛大学校講師  
2014年 防衛大学校准教授  
2021年 防衛大学校教授  
防衛大学校グローバルセキュリティセンター  
クロスドメイン研究部門電磁波ディフェンス  
グループ長

## 1. はじめに

質・量に優れた軍事力の脅威を抑止及び対処するためには、陸・海・空という従来の領域における能力と宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域における能力を有機的に融合させる領域横断作戦の実現が必要とされている。電磁波は、日常生活においてテレビや携帯電話、衛星測位システムといった情報通信に幅広く使用されている。軍事においても、指揮統制のための通信機器や、レーダー、誘導装置などに使用されている。電磁波領域における優勢を確保することは、現代の作戦において必要不可欠である。このことから防衛省においては、防衛装備庁が立案した研究開発ビジョン[1]において、電磁波領域における能力を電子戦能力と電磁波管理能力に大別している。電子戦能力は、相手の戦闘能力を低減・無効化する対処、相手による電磁波の影響を抑制する防護、対処や防護を実施するために必要な情報収集支援から成る。また、これらの能力を構成するための技術及びその技術課題が整理されている。

アンテナは、空間に電磁波を放射するとともに、電磁波を捉える装置であり、電磁波領域と他の領域の橋渡しとなるものである。アンテナの研究開発は、民生分野においても、その発展は目覚ましく、今日も盛んに研究開発が行われている分野である。我が国における電磁波領域の最新の研究成果は、電子情報通信学会アンテナ・伝播研究会や電子戦学会EW研究会などで得られる。本稿では、このアンテナに関する技術のうち近年注目されているメタマテリアル技術を中心に紹介する。

## 2. アンテナ技術の基礎と最新動向

### 2.1 アンテナの歴史

はじめにアンテナの歴史について紹介する。1864年にマクスウェルが電磁波の存在を予言した。次に、1888年にヘルツがダイポールアンテナを製作、実験を行い、マクスウェルが予言した電磁波を実証した。1900年にはマルコーニが、容量装荷モノポールアンテナを開発し、無線通信を実用化した。以降、様々なアンテナが研究開発されていくこととなる。防衛分野では、アンテナ素子を配列することにより、アンテナ単体では実現できない機能を実現することが可能となるアレーアンテナ技術や日本人が開発した八木・宇田アンテナが用いられている。

### 2.2 アンテナの設計方法

アンテナの大きさは、対応する周波数に依存する。例えば、基本的なアンテナであるダイポールアンテナは波長の半分で最も効率が良く動作する。しかし、アンテナが満足な性能を発揮するための空間を確保することは容易ではない。例えば、携帯端末等では、様々な機能を実現するために多数の部品が搭載されている。これらの部品のうちには、携帯電話用のアンテナのみならず、GPSやWi-Fi、Bluetoothのためのアンテナも搭載されている。例えば、Wi-Fiには、2.4GHzと5GHzの周波数が割り当てられているが、2.4GHzの波長の半分は6.25cmであり、携帯電話への搭載は困難である。防衛分野においても、アンテナは小型であることが望ましい。例えば、基地局の配置に制限がかかる海上や山の上などの屋外通信において、安定した通信を確保するには、低い周波数で動作するアンテナが望ましい。しかし、低い周波数ではアンテナのサイズが大きくなるため、運搬や隠蔽が困難になるといったデメリットが生ずるものと考えられる。

一般にアンテナに求められる機能や性能は、限られた搭載スペースにアンテナを搭載するための小型化、遠い距離まで通信を可能とするアンテナの高利得化、隣接する素子との相互結合の低減、指向性の切り替え、任意に制御できるビーム走査及びレーダーから探知されにくくなる電波吸収などがある。アンテナの設計においては、アンテナを搭載する部品に様々な機能や性能が求められていることが多い。例えば、小型でかつ遠くに電磁波が届く端末があれば、隊員も運搬が便利であり、味方との通信も取りやすい。この性能をアンテナ単体で実現しようとする、物理的にサイズが小さく、高利得なアンテナが必要となる。一方で、アンテナの利得は、アンテナの大きさに比例するため、これらの要求はトレードオフの関係となる。したがって、アンテナの設計においては、アンテナ単体で、双方の矛盾する要求を達成できるように設計するか、システム全体で性能を達成できるように設計することが重要となる。

防衛分野におけるアンテナの選定例として、移動体通信における端末側では、基地局の位置が不明のため無指向性のモノポールアンテナが採用されている。また、誘導武器等においては、空気抵抗を局限するとともに、通信距離も長大になることから、高利得で空気抵抗が小さい薄型のパッチアンテナなどが用いられている。装備品の研究開発要求は毎度変化するため、既存のアンテナでは、実現が困難となる場合がある。その際は新たなアンテナの研究開発が必要となる。

## 2.3 アンテナの解析手法

現代のアンテナの研究開発では、電磁界解析手法を用いてアンテナを設計し、その特性を実証するのが一般的な流れとなっている。代表的な解析手法としては、モーメント法、有限差分時間領域法(FDTD法)、有限要素法などがある。今日も、これらの解析手法によって様々なアンテナが新たに提案されている。それぞれの解析手法には特徴があり、モーメント法は一般に線状アンテナに関する問題を得意としている。FDTD法や有限要素法は、金属以外の物体(誘電体)を用いたアンテナも高精度に設計することが可能である。これらの代表的な解析手法に加え、近年では特性モード解析によるアンテナ設計法が提案されている。これは、他の解析手法とは異なり、ある形状がアンテナとなる条件を算出することができる手法である。例えば、携帯端末のような形状に対し、特性モード解析を行うと、その形状の表面に流れる電流分布を求めることができる。電流分布はアンテナの設置位置に依存するため、所望の指向性や放射効率が最大となる位置を探索することも可能となる。

## 3. メタマテリアルの研究と最新動向

### 3.1 メタマテリアルとその歴史

電磁メタマテリアルとは、自然界にはない特性を有する人工的な電磁構造を有する構造であり、通常の複合材料の限界を超えた物性、機能をもつように設計された物質である。現在は、アンテナの小型化やクロッキング等、幅広い分野に応用されている。メタマテリアルの一種であるメタサーフェスは、自然界には存在しない反射特性を持つ物体であり、人工表面と呼ぶこともある。表面の構造を工夫することにより、反射係数や表面波の伝搬振幅を制御することが可能となる。メタサーフェスは、到来した電磁波の遮断や反射方向の制御など幅広い分野に応用されている。ここで、電磁メタマテリアルの歴史を簡単に紹介する。まず、1967年にロシアのVeselagoが左手系媒質を理論的に解析した。1990年代にはイギリスのPendryらによって、電気プラズモン及び磁気プラズモンを用いた負の誘電率及び透磁率媒質を組み合わせたメタマテリアルが提案された。2000年以降は、負の屈折現象の実証や、伝送線路アプローチによるマ

マイクロ波領域の様々なアンテナや回路が提案されており、今日に至るまで盛んに研究開発が行われている[2]。

### 3.2 MIMO用アンテナ

民生分野において、高速大容量通信を実現するため、スモールセルが提案されている。セルとは、基地局が移動端末をカバーするエリアのことであり、1つの基地局あたり、数100m～数kmのエリア半径を有している。スモールセルは、1つのセル半径を数100m程度に設定し、端末1台あたりの基地局との通信容量を増やすものである。スモールセル用アンテナへの要求は主に2点ある。1つ目は、エリアを狭く設定し、隣接する基地局で電波の干渉を防ぐための指向性である。基地局の高さを変化させないと仮定すると、チルト角度が十分深く、水平方向への放射を十分小さくすることが必要である。2つ目の要求は、設置する基地局が増えるため、細径構造等の基地局そのものが目立たない構造とすることである。このようなアンテナとして、メタマテリアルを用いた細径2ブランチMIMO用アンテナが提案されている[3]。このアンテナの構造は、直径12 mmの円筒内にメタマテリアルを用いたアンテナを搭載している。水平面においては無指向性かつ、垂直面においては深いチルト角を実現し、対象エリア外への放射を十分小さくしている。

### 3.3 円筒クロッキング

レーダーは、電波を送信し、目標から反射した電波を観測することにより、距離を算出している。目標に到達した電波が反射することなく迂回すると、その目標は観測することができない。このような技術をクロッキングと呼ぶ。クロッキング技術は、防衛分野においては、先に述べたステルス技術、民生分野においては、アンテナ間の相互結合を抑制する利用法が検討されている。これまでスプリットリング共振器を用いた円筒クロッキングの他、さらなる薄型構造を実現するために積層セラミックコンデンサを用いた円筒クロッキング(図1)が提案されている[4]。一方で、電波の反射は抑制できるものの透過した電波の損失が発生するため、メタマテリアルの低損失化は完全なクロッキング実現に向けての課題となっている。

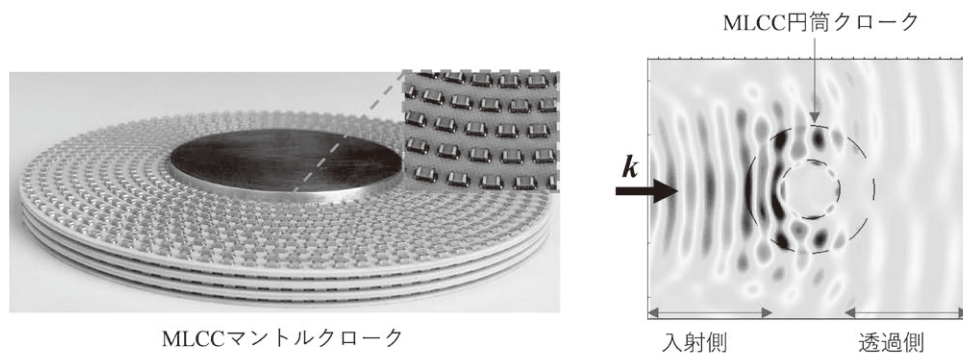


図1 MLCCを用いたマントルクローク

### 3.4 メタサーフェス反射板

第5世代移動通信で利用が開始された28GHzの高い周波数の電波は直進性が高い。このため、図2に示すように、建物や樹木等の遮蔽により、十分に高い通信品質が提供できないカバレッジホールの発生が懸念されている。このカバレッジホール解消の手段として、メタサーフェスを用いた反射板が注目されている。メタサーフェス反射板は、通常金属板が、正面から入射した電磁波を正面に反射するのに対して、特定方向から入射した電波を任意の方向へ反射することができる。このため、メタサーフェス反射板を用いれば、カバレッジホールに向けて反射方向を設定することができるので、端末に電波を届けることが可能となる。図2に製作したメタサーフェスの写真を示す[5]。反射板の表面上にある微細な金属パターンにより、入射した電磁波の位相を変化させることができるので、反射方向の調整が可能となる。メタサーフェスは、コンパクトレンジシステム等でレーダー断面積を測定することで評価することが可能である。また、景観へ配慮した透明メタサーフェス反射板による受信電力の評価実験も行われており、メタサーフェスの設置前後で10倍以上の受信電力の改善が実証されている。



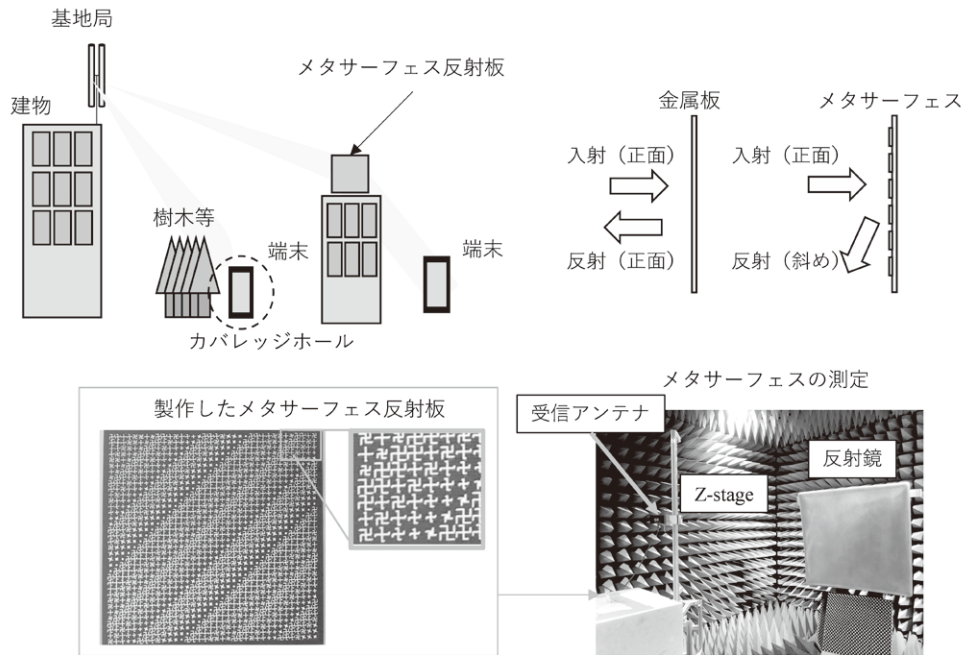


図2 メタサーフェス反射板

#### 4. おわりに

本稿では、アンテナの基本事項を解説するとともに、メタマテリアルの歴史と最近の民生分野における研究開発事例として、移動通信用基地局アンテナ、円筒クロッキング及びメタサーフェス反射板について紹介した。電磁波領域におけるアンテナ及びメタマテリアルの研究開発の参考になれば幸いである。

#### 参考文献

- [1] 防衛装備庁, 研究開発ビジョン解説資料, March 2020.
- [2] 宇野, 道下, メタマテリアルアンテナの基礎, コロナ社, Sep. 2021.
- [3] 佐々木 他, “移動通信基地局用メタマテリアルアンテナに関する取組み,” 電興技報, no.52, pp.25-31, 2020.
- [4] T.B. Nguyen, et al., “Cylindrical Cloaking based on Arrangement Density Control of Multilayer Ceramic Capacitors,” J. Adv. Simulat. Sci. Eng., vol.9, no.1, pp.48-64, Jan. 2022.
- [5] H. Hashiguchi, et al., “Dual Bands and Dual Polarization Reflectarray for Millimeter Wave Application by Supercell Structure,” IEICE Trans. Commun., vol.E106-B, no.3, March 2023.



講義中の道下教授



## 「領土問題等アラカルト」



防衛大学校 防衛学教育学群 戦略教官室

准教授 中澤 信一

1984年 防衛大学校国際関係論卒（28期）  
1995年 掃海艇ひこしま艇長  
2000年 掃海艦はちじょう艦長  
2003年 第42掃海隊司令  
2008年 掃海母艦うらが艦長  
2012年 防衛大学校戦略教育室 准教授  
2016年 定年退官後も再任用自衛官として現職

### はじめに

今日の安全保障講座では「領土等問題アラカルト」として、ここ数年研究としている内容を紹介させていただきます。なお、この講座での発言は、すべて一般情報を元に分析した個人的な見解であることを御承知ください。この講座では、皆さんの関心が高いと思われる尖閣周辺海域における『中国海警船と尖閣領海警備専従巡視船』の現状をメインに、後半の『「竹島vs獨島」日韓キャンペーン活動』については画像中心に紹介させていただきました。ただし、誌面の関係上、全てのスライドを掲載することはできませんので、文字では分かりにくい後半の内容は割愛し、皆様の関心が高い中国海警船に関する講演の口述内容と資料データを優先して掲載させていただきました。

### 「中国海警局に所属する船舶vs尖閣領海警備専従巡視船」 ～中国海警船の尖閣派遣パターンと海警法の本気度～

2016年石垣海上保安部に尖閣領海警備専従体制が整備されましたが、相変わらず尖閣周辺海域への「中国海警局に所属する船舶<sup>1</sup>」の常態化が進み、接続水域での航行活動はほぼ連日継続。我が国の安全保障環境に多大な影響を与えていることは、皆様ご承知のとおりであります。今日は、中国海警船と彼らから日本の領海や日本漁船を護る尖閣領海警備専従巡視船について紹介します。

#### 〔国有地尖閣諸島の概要〕

まず、現場の尖閣諸島について簡単に説明したいと思います。

民主党野田政権の2012年9月11日に尖閣諸島が国有化されたと言われていま

<sup>1</sup> 海上保安庁では、ちょうど2年前の2020年1月20日から「中国公船」という用語を使わず「中国海警局に所属する船舶」と呼称していますが、この講座では、便宜上「中国海警船」等と省略して呼称していることもあります。

すが、実際に国有化されたのは「魚釣島」と「北小島」と「南小島」の3島で、「尖閣諸島の取得・保有に関する関係閣僚会合」(2012. 9.10)において海上保安庁が管理する島嶼になり、日夜海上保安庁の巡視船が頑張っていて警備しています。さらに北東方向には「久場島」と「大正島」の2島があり、民有地の「久場島」は防衛省が借り受けて、すでに国有財産としての管財の管理下にある「大正島」ともに米軍の射爆撃場として米軍が管理していますが、1979年(昭和54年)以降40年以上、使用実績はありません。住所は、石垣市の役所街である登野城2390～94の番地が割り当てられていましたが、2020年10月1日から「尖閣」の地名を表記<sup>2</sup>することが石垣市議会で可決されて、郵便番号も、登野城の「907-0004」から「907-0031」に変更されました。

#### 〔尖閣諸島周辺海域における中国海警局に所属する船舶等の動向〕

さて、データの収集・分析要領について説明します。

海上保安庁ホームページ(HP)に掲載されている「尖閣諸島周辺海域における中国海警局に所属する船舶等の動向」を接続水域及び領海侵入隻数を月別にグラフ化したものは有名ですが、さらに、確認された隻数を日別に集計されたデータも閲覧でき、毎月15日のデータが異様に多いことに気が付きましたが、海上保安庁のHPでは、これ以上の情報は得られませんでした。しかし、第十一管区海上保安本部では、HPには掲載していませんが、マスコミ向けにはほぼ毎日15時頃の「中国海警局に所属する船舶」の情報を提供しているようで、地元紙の『沖縄八重山日報』社は、この海保情報と地元の漁師等から得た現場海域での状況でほぼ毎日記事にしており、この『八重山日報』の記事から中国海警船の動静を把握することにしました。

---

<sup>2</sup> 【尖閣諸島住所】

- 南小島：石垣市登野城尖閣2390番地(国有地；海上保安庁)
- 北小島：石垣市登野城尖閣2391番地(国有地；海上保安庁)
- 魚釣島：石垣市登野城尖閣2392番地(国有地；海上保安庁)
- \*久場島：石垣市登野城尖閣2393番地(民有地；防衛省借地⇒米軍管理地)
- \*大正島：石垣市登野城尖閣2394番地(国有地；財務省⇒米軍管理地)

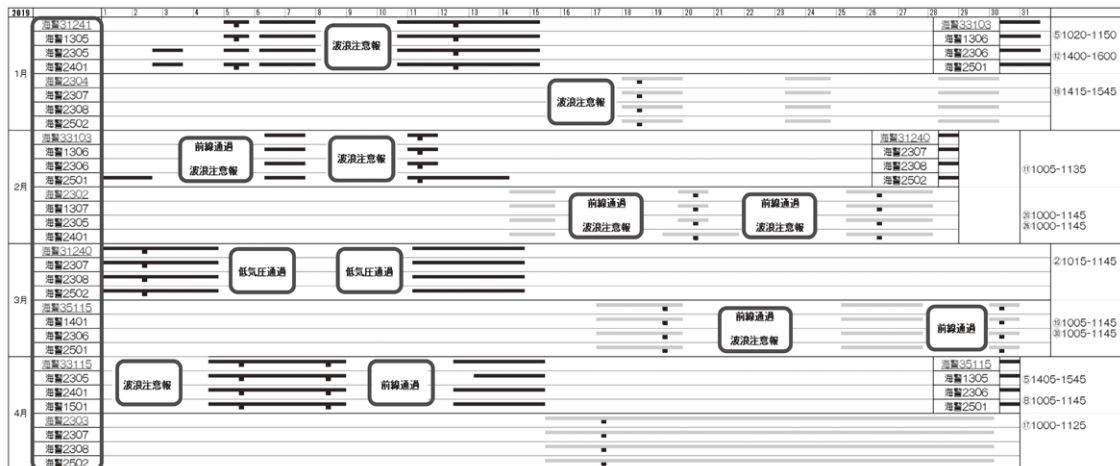
<sup>3</sup> 中国海警船に関する標準記事では「接続水域内航行隻数」「連続航行日数」「確認された中国海警船番号」+紙面に余裕があれば「15時頃の航行海域」が記載されています。

そこで「尖閣周辺海域の風向風速・波浪」と「接続水域及び領海侵入実績」を毎日記録すると、ほぼ毎月15日前後に、4隻船隊が交代していることが、一目瞭然であり、前述の海上保安庁の確認隻数も「7隻」や「8隻」になっているのはこのためです。

月	日	全般				海上保安庁		月	日	全般				海上保安庁	
		風速	波高	接続水域侵入	領海侵入	風速	波高			接続水域侵入	領海侵入				
4	13	火					3								
4	14	水					3								
4	15	木					7								
4	16	金					4								

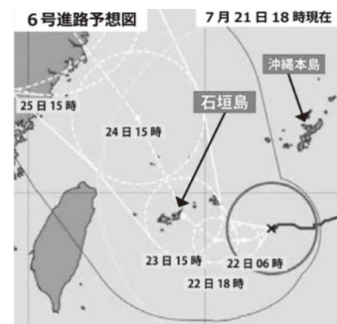
さらに、接続水域内で確認された中国海警船個々の情報を船隊ごとに色線表にしてみました。「機関砲のようなものを搭載した」海警船を、分かりやすいように4隻船隊の最上部にし、それ以外はトン数の小さい船から並べました。

【中国海警局に所属する船舶】の尖閣周辺海域配備状況 2019年1月～4月】



2019年1月～4月の線表では、毎月15日と30日基準に、それぞれ4隻船隊が半月交代で派遣されているのが分かります。赤い点状はそれぞれ領海侵入していた時間帯を表します。尖閣周辺海域は4月頃まで冬型の気圧配置の影響で波浪が高く、白い空白期間が目立ちます。

2019年7月～10月（文末データ参照）は、台風の影響を受けているのが分かりました。台風避泊について少し説明します。7月下旬に現場海域を直撃し、2月13日からの中国海警船の連続航行記録を157日で中断させたのも「神風」台風6号でした。沖縄ホワイトビーチの掃海艇は進路予報によっては佐世保湾まで避難することもあります。中国海警船も母港近くまで戻っている可能性があります。



【「中国海警局に所属する船舶」の尖閣周辺海域配備状況 2020年1月～4月】

2020	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1月	海警1304	■																												41000-1140	
	海警2102	■																													
	海警2502	■																												41612-1742	
	海警6302	■																													
	海警1305															■															
	海警2501															■															
2月	海警6304															■														51000-1140	
	海警14603															■															
	海警1305	■																												51000-1150	
	海警2301															■															
	海警6402															■															
3月	海警2202	■																												51600-1745	
	海警1301	■																													
	海警2301	■																													
	海警6402	■																													
	海警2201															■															
	海警1103															■															
4月	海警1401															■														51000-1145	
	海警2502															■															
	海警1304	■																													
	海警2102	■																													
	海警2501	■																													

2020年1月からは15日交代基準の1か月交代周期に移行しています。この要因は、新型コロナウイルスの影響という意見もあるかと思われませんが、中国海警船の派遣ローテーションが往返日数に比べ、派遣中の個艦の負担は（生糧品さえ確保できれば）それほど苦ではないと判断されたものとも考えています。

日本漁船の操業妨害のため領海侵入していた時間帯を赤線（モノクロ印刷では太濃黒色の帯線。以下、同じ。）で表しましたが、2020年の下半期（7月～12月期）の線表では、この頃から領海侵入の赤線が数日にまたがって目立ち始めていますが、これは尖閣領海内で操業中の日本漁船に常時張り付いているためです。2021年に入ると、日本漁船追尾のための領海侵入の回数が多くなっていますが、中国海警船の遣り繰りもきつくなっているのではないかとこの事案が、3月の後半に発生しました。

中国海警局の現行動パターンでは、3月15日に次の4隻船隊と交代しますが、3隻しか現場に現れず、一度離脱した「海警2302」が2日後には呼び戻されて更に10日間残留。更に交代したばかりの「海警6402」が4日後で離脱したため、また3隻態勢になり、1か月前に下番した「海警1301」と翌月上番予定と思われる「海警2301」を急きょ投入。「海警2301」は後半5日程度早めに離脱しましたが、生糧品等を搭載後、4月15日には当初の予定通り次の交代船隊と一緒に復帰し、そのまま1か月最後まで行動しています。複数クルー制を採用しているかどうかは不明ですが、固定クルーであれば、あまり考えられない部隊運用です。この事案は、中国海警局に予備の可動船の余裕がない現実の表れだと推察できます。とは言うものの、海上保安庁側も1月下旬に艦齢40歳の巡視船「うるま」（1980(昭和55)年建造）が機関の老朽化で一時航行不能に陥っていたという報道（3月21日産経新聞ネットニュース）もありましたので、双方ともに多大な負担を強いているのは間違いありません。

文末に、2019年から2022年の4年間の派遣線表を掲載していますが、このようなバタバタ劇は表面上は見られませんでした。海上保安庁の広報資料には連続〇〇日航行を確認という無意味な表現をしています。中国海警局に所属する船舶は、ほぼ365日尖閣周辺海域に4隻配備されていると言っても言い過ぎ

ではありません。

長い赤線は、日本漁船を追って領海に侵入した時間帯を表しています。

2021年に入ると、複数の日本漁船対応のため2隻ペアで分派しています。

2021年5月～8月期には、日本漁船を追って領海に侵入した時間帯が、漁船の動きに合わせて数日に跨ることも増えてきましたが、8月末の複数漁船に対しては、事前に報道等で情報を得たのかワンポイントリリースの海警船が登場しました。

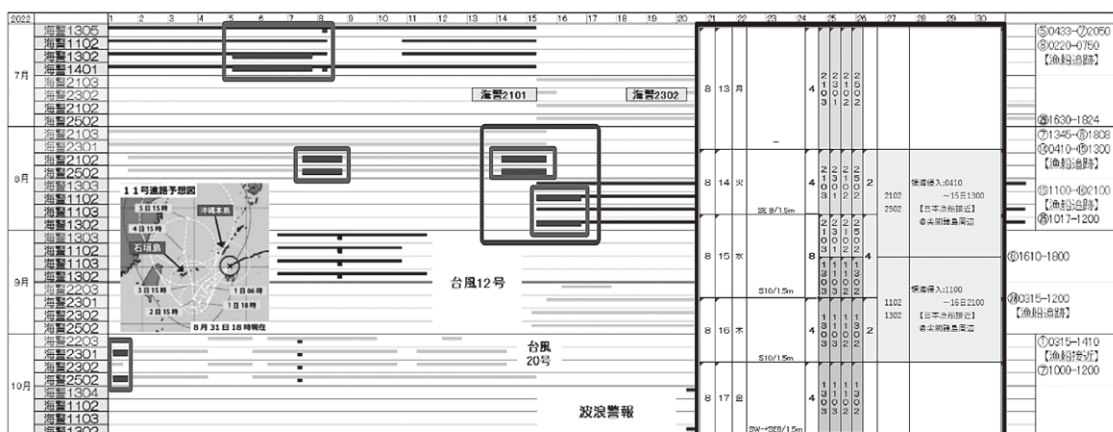
2021年の下半期（7月～12月）では、この頃から、北京冬季五輪を意識してか領海侵入の回数が減少しており、特に7-8月期のチーム及び10-11月期のチームは、ノルマのような領海侵入の実績作りもありませんでした。

漁船追跡のために分派された海警船を観ると、「機関砲のようなものを搭載」した海警船を意図的に外しているようにも見えます。

また、9月期以降の交代日が、8月までの15日基準から18日、24日、20日と少しズレ込んでいるので、態勢の移行期ではないかと推察されます。この自粛現象は、2022年に入っても続き、1月下旬から2月上旬の「春節期間」は休暇を与えたのか荒天理由以外で初めて長期の2隻態勢としたようですが、1月31日の石垣市長市議が乗船した調査船への対応でも、他の2隻が戻って来ましたが、不意を突かれたからか間に合いませんでした。北京冬季五輪閉幕後も沈静化したように見えますが、尖閣諸島の接続水域への4隻配備態勢は継続しています。

今年(2022年)の8月15日の海警船隊が交代予定日に特異事象がありました。

交代前日の14日に寧波チームの2隻が日本漁船を妨害するために領海に侵入しました。そのまま最後まで漁船を追跡すると思われましたが、15日に海域に到着したばかりの上海チームの2隻が領海に侵入し、坦々と漁船追跡を受け継ぎました。同じような海警船の交代事案は、2021年12月期にもありましたが、このことは、海警船にとって、日本漁船の追跡行為や領海侵犯はルーティンの日常的な業務と認識していることを意味します。



### 〔中国海警総隊〕

ここで中国海警総隊の下部組織を確認します。海警の船首に表示されているハルナンバーには、一定の法則があります。最初の千の位は、所属する分局の番号を、百の位の番号は船舶の大きさ、すなわちトン級の区分番号を表示。下2桁の通し番号を加えた4桁または5桁で形成されています。これは、日本の漁船登録番号<sup>1</sup>の法則と同じような法則になります。

では、尖閣諸島に派遣される中国海警船は、何隻でローテーションしているのか調べてみました。2019年1月からのデータでは、上海分局所属の千番台13隻。寧波分局所属の2千番台20隻、それ以外の青島等所属の13隻の46隻が確認できました。

ただし、2019年8月を境に色分けするとこの年の8月に中国海警船の編成替えがあったことが分かります。この時期に中国海警船の再配分がなされたという報道と一致します。ハルナンバーが同じでも違う船に変更されているため、2019年8月以前のデータは無視し、最近のローテーション動向を把握するために、半月交替から1ヶ月交替に移行した2020年1月からの3年間のデータで分析することにしました。

<sup>1</sup> 「登録県の識別標(アルファベット2文字)」+「漁船の等級標(大きさ:1数字)」+登録順の番号



「中国海警局に所属する船舶」の尖閣周辺海域配備状況

(2019年1月～2021年6月)

所属所	船名	2019												2020												2021											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6						
上海	海警 1102	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 1103	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 1301	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 1302	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 1303	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
上海	海警 1304	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 1305	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 1305	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 1306	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 1307	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
上海	海警 1310	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 1401	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 1501	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
21	海警 2101	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 2102	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 2103	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 2145	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 2201	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
22	海警 2202	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 2203	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 2301	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 2302	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 2303	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
23	海警 2304	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 2305	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 2306	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 2307	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 2308	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
24	海警 2309	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 2401	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 2501	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
25	海警 2502	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 2503	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 2504	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
93	海警 9302	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 9303	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 9304	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
94	海警 9401	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 9402	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
95	海警 9501	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 14503	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
312	海警 31201	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 31202	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 31203	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
331	海警 33101	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 33102	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
351	海警 35101	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											
	海警 35102	[Ship icon]												[Ship icon]												[Ship icon]											

派出される海警船の母港の地理的位置を確認するため、地図表記したものです。青いサークルの中心は魚釣島ですが、石垣島までの距離<sup>2</sup>(約90マイル)の何倍離れているかを概略表示してみました。5倍離れている青島から派遣される海警船の大変さがわかりますが、上海からでも3倍相当距離があることがわかります。

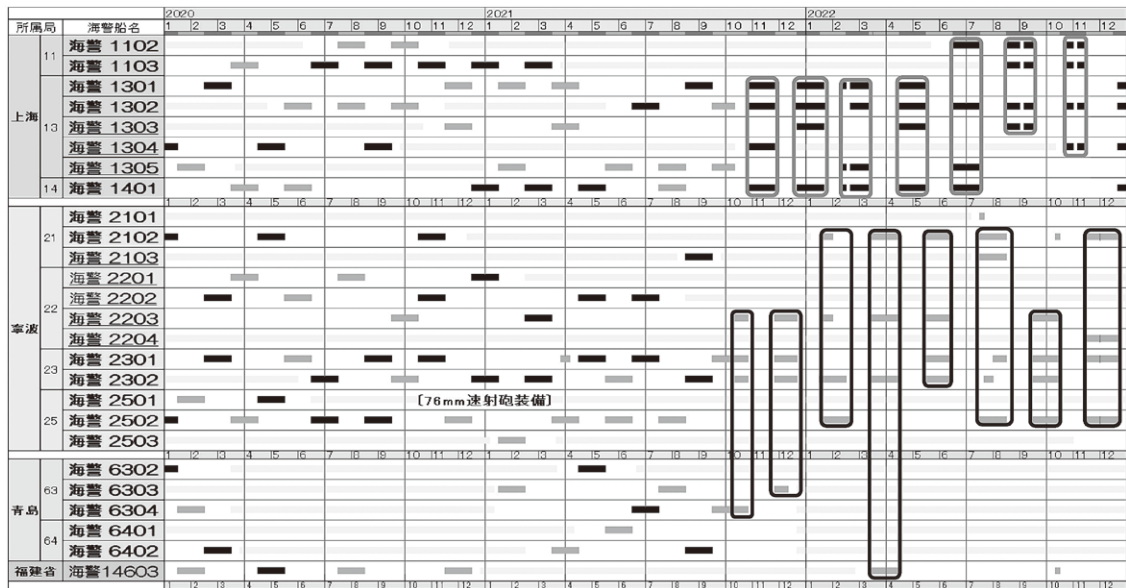


2020年1月期以降1年単位に観ていくと、上海分局及び寧波分局から毎年7～8隻、担当区外の青島分局及び福建省からは4～5隻の支援を受けていましたが、今年に入り青島分局からの派遣実績はありません。なお、合計隻数は20隻から16隻に減少し、尖閣対応の海警船は、ほぼ固定化され、年間16隻の中からローテーションしている計算になります。したがって、修理期間等を除くと、尖閣対応可働海警船は12隻前後と見積もることができます。実際、半年期毎の運用実績を数えてみると、今年に入り12隻前後というのは妥当な数字だと言えます。毎月4隻基準で派遣しているので、四半期に1回以上は派遣される計算になります。

4隻船隊は、派出元の異なる混成チームによる編成でした。一度に4隻の海警船が抜けると本土沿岸部の業務に支障をきたすのを考慮していると推察して

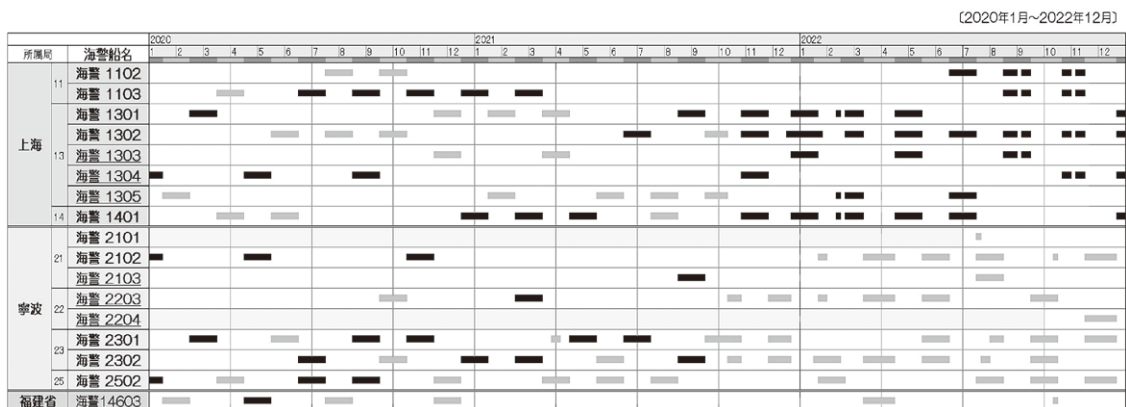
<sup>2</sup> 石垣島～尖閣 (約90NM) = 約6時間/15kt、約7.5時間/12kt (巡航経済速力)

ましたが、2021年10月9日以降、沿岸を担当する海警船が確保できたのか「上海」チームと「寧波・青島」チームの2チーム編成に移行しており、さらに2022年になってからは遠方の青島分局からの支援も受けていないのが分かります。



これは海上保安庁の「尖閣警備専従巡視船」の中国版「尖閣専従と推察される中国海警局に所属する船舶」による海軍式のタスクフォース運用を採用した可能性があります。「尖閣専従と推察される中国海警船」は「上海」チームが8隻、「寧波」チームが8隻の2チーム16隻（福建省の1隻は予備か？）で、派遣される海警船が固定されれば、偶発的な事故を予防するメリットもあります。その証拠に、2018年12月頃から海警局の各級司令員<sup>3</sup>は、全員元海軍少将が移籍して就任しており、その経歴から分かるとおり、全員が生粋の船乗りであるため、海軍の部隊運用方式を取り入れているように思えます。

「尖閣専従(と推察される)中国海警船」の尖閣周辺海域配備状況

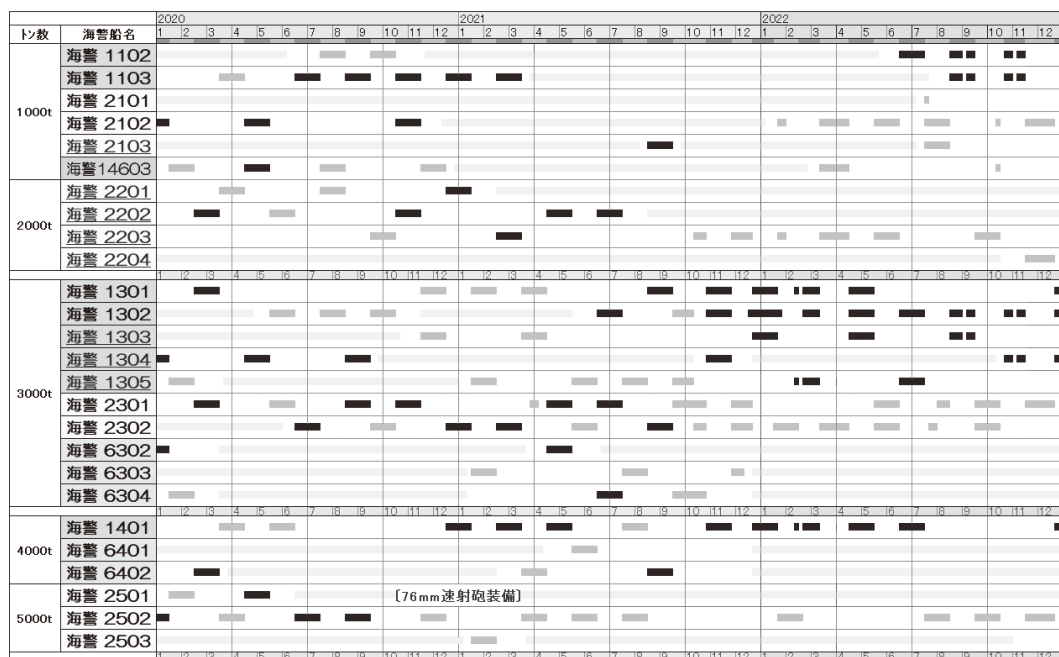


<sup>3</sup> 防衛省・自衛隊：中華人民共和国海警法について (mod.go.jp)

年10月期の交代時期を見直してみました。確かに10月7日に上海分局の2隻が離脱し、交代で9日に寧波分局の2隻がチェックインして「寧波・青島」の4隻編成になり、このチームと交代したのは、「上海」の4隻船隊でした。また、8月下旬のように、複数隻の出漁情報を報道等で事前に入手した場合は、増援海警船をワンポイントリリースさせている場合もあります。

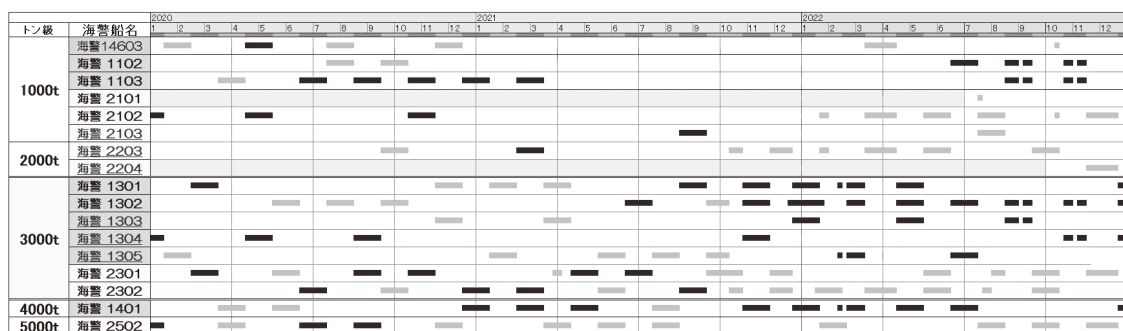
派遣された海警船を大きさ、つまりトン数別に分類してみました。

多少の荒天でも極力海面を離れなくても良いように、2021年は3千トン以上の大型船の比率が高くなっていましたが、10トン程度の漁船に接近するためには、極力小さい船の方が望ましいので、混在させる必要があります。



なお、2年前まで常連だった「海警2501」は、2020年後期以降の特別改造で、日本の護衛艦の標準砲同等の〔76mm速射砲〕を装備してからは、意図的に尖閣周辺海域には派遣されていないようです。ただし、2022年11月15日には、76mm砲のようなものを搭載した「海警2204」が初めて確認されています。

さらに「尖閣専従と推察される中国海警船」16隻をトン数別に分類しました。



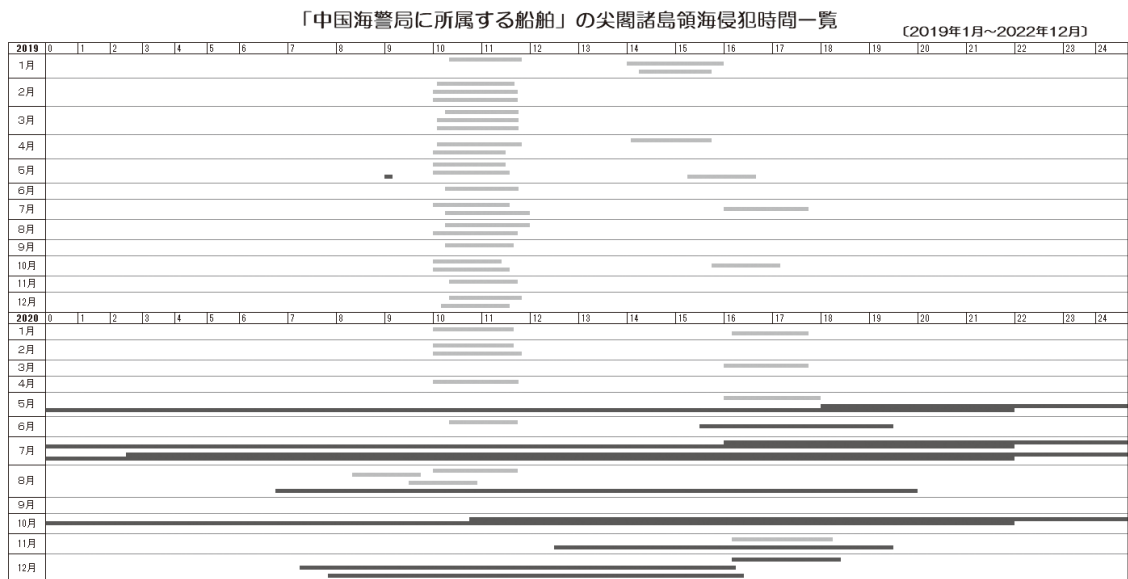
予備船的な「海警14603」を除く「2千t級」以下が8隻、「3千t級」が7隻、「4千t級」以上が2隻ですが、海上保安庁の尖閣警備専従巡視船は、主力の千トン級10隻に加えてヘリ搭載が可能な6千トン級が2隻指定されています。さらに、隣接する宮古海上保安部には、規制能力強化型の180t級小型巡視船(PS) 9隻が増強されており、尖閣警備に出動する巡視船の編成と同程度の海警船を派遣していることが分かります。

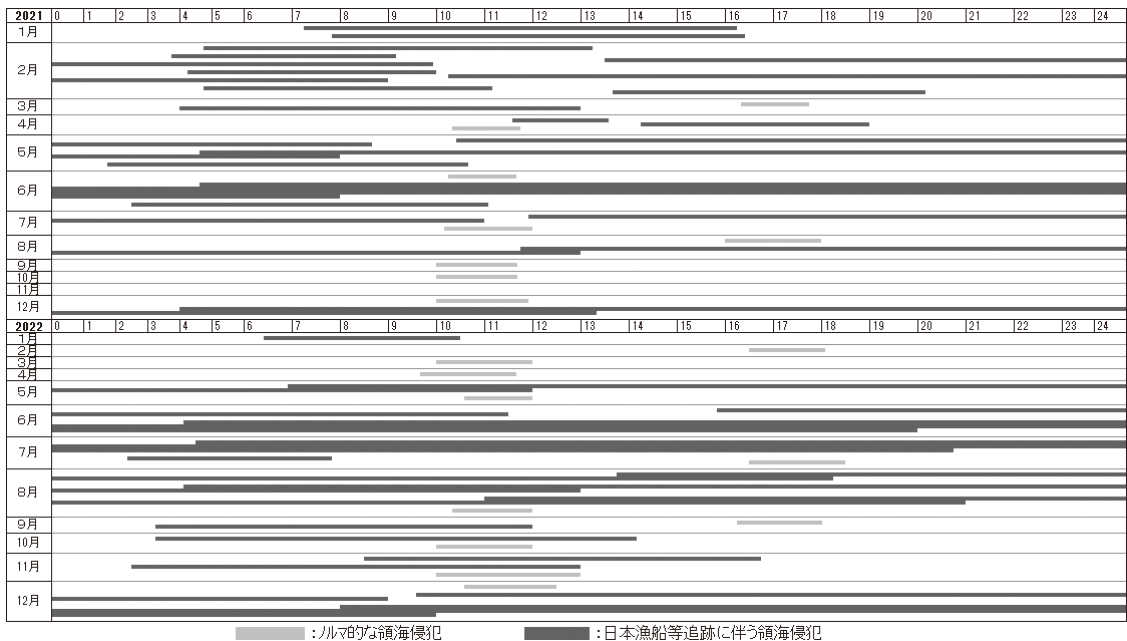
76mm速射砲が装備された「海警2501」が尖閣周辺海域で確認された当時の前甲板の写真では、大砲装備位置に青い鉄板の蓋が確認できます。さらに、年間4回程度定期的に派遣されている同型船の「海警2502」も同じく前甲板に後日装備するスペースはあるものの、装備すると尖閣に派遣しない方針なのか、「海警2501」改装後1年以上、未装備のままです。ただし、小型漁船には、機関砲より放水銃の方が使い勝手も良く、「中国海警法」上でも効果的な武器といえます。また、1年の半分派遣されている尖閣常連の「海警1401」は、モックアップ模型から元々の計画では速射砲が装備されるようになっていますが、現在も未装備のまま尖閣周辺海域に派遣しています。

なお、護衛する日本の全ての巡視船には「機関砲」が装備されているため、兵装では圧倒的な差があります。

〔領海侵入の時間帯〕

2019年1月からの約4年間の領海侵入した時間帯を纏めたもので、赤線（モノクロ印刷では濃黒線）は、日本漁船を追跡中の侵入時間帯を表示しており、操業中は常に張り付いているため、時間帯が長くなっています。そのような特異事象がない時の領海侵入は緑線（モノクロ印刷では淡い線）で表示しました。食事前の10時頃あるいは16時頃から1時間半から2時間程度、とりあえず実績作りのノルマのような侵入と読み取れます。





海上保安庁では「接続水域内に中国の海警局がいることは自由」という見解<sup>1</sup>であるため、巡視船は「領海に近づかないよう警告」はしていますが、これ以上の警告はできていないようです。

#### [中国海警船の派遣パターン]

- 以上のことから〔中国海警船の派遣パターン〕を次のように整理しました。
- 船隊の規模及び構成は、4隻船隊基準で編成されているが、船隊司令員の存在は不明。船隊によっては2隻・2隻に分派されることもある。
    - ・ 1隻は必ず「機関砲のようなもの」を搭載する船舶が含まれる。
    - ・ 2021年10月9日までは、東海分局直属の第1局（上海）、第2局（寧波）、北海分局直属の第6局（青島）等の混成船隊であったが、2021年10月9日以降は「上海チーム」船隊と「寧波チーム」船隊が交互に編成されて派遣されている。
    - ・ 船艇の大きさは、巡視船同等の3千トン級中心の編成が主流であるが、10t程度の漁船に対応するため1～5千トン級を混成している。
  - 派遣期間は、2020年1月15日までは、15日及び30日基準日の半月交代で、2020年1月15日以降は、15日基準日の1か月交代に移行している。
    - ・ 派遣間隔は1～4か月間隔が混在するも、最近では1か月間隔の船が多くなってきたことで、中国側も「尖閣派遣海警船」16隻を専従化して海軍式に運用している可能性有り。
  - 領海侵入のパターンは、領海内の日本漁船を長時間追跡している以外は、

<sup>1</sup> 一条正浩第十一管区保安本部長が、2022年5月20日に宜野湾市講演会で発言。

船隊交代前後の食事前（10時/16時頃）の2時間程度の侵入が多いことから、派遣船隊の実績作りのノルマをこなしている程度である。\*石垣海上保安部と宮古海上保安部の巡視船約10隻が協力し合って漁船を直衛し、接近させないように間に入って阻止しています。

#### 〔中国海警法施行後の尖閣周辺海域での「武器使用」の本気度〕

また、2021年2月1日に「中国海警法」が施行されたことで、管轄海域での外国軍用船舶・公船に強制退去措置。特に、従わない場合は、「武器使用を含む一切の必要な措置」が可能になり、我が国の島嶼防衛にかなりのインパクトを与えました。では、実態はどうか。「中国海警法の「武器使用」の本気度」を探ることとしました。

「中国海警法」で承認された「武器使用」に関連して、同年3月15日の共同通信で、中国は2月下旬、外交ルートを通じ「尖閣が中国固有の領土だ」と改めて主張。海警の日本漁船に対する追跡は「漁船の中国領海への侵入を受け実施している」と正当化するとともに、海保の巡視船や日本漁船への強制退去や放水銃での制圧、武器使用を含めた「対応を自制している」と表明しているという報道がありましたが、同時に、「日本漁船への追尾は継続する」ことも宣言しており、これらの海警船の動きは、この方針を有言実行してようにも認められます。

では、「中国海警法」で承認された「武器使用」を「本当に自制してる？」かについて考えました。

➤ 中国海警法の施行を境に行動パターンや船艇の編成や兵装等に大きな変化はなく、接続水域の航行は常態化させているが、中国海警船の日本漁船への対応については、4隻海警船のうち2隻を分派して対応していますが、意図的に「機関砲のようなものを搭載」していない海警船を優先的に分派して対応していると思われるケースが多く、八重山漁協所属の「鶴丸」（仲間均市議）に対する中国側の言う「政治的な行動をする漁船への対応行動」以外にも「第一桜丸」（砂川徳次郎船長）や「恵美丸」（砂川晃輝船長）さらには沖縄本島方面からの日本漁船への接近事案も継続しています。仲間市議によると、出漁した漁船への追跡行動はあるものの漁船（「鶴丸」等）から撮影した海警船の威圧行動の画像がYouTubeやニュースで流れてからは、少し距離をおいて監視するようになり、放水銃すら指向されたという情報もありません。

➤ 海保巡視船への対応に関しても、漁船攻防戦の際に、異常接近することはあっても、特に、敵対行動をしたという情報もありません。

➤ 大砲（76mm速射砲）未装備の現状について

・「海警2501」は、2019年に〔H/PJ26H型76mm速射砲〕を装備した以降、尖閣派遣船から除外されており、同型船の「海警2502」は未装備のまま「尖閣専従海警船」として運用しています。

・さらに速射砲装備船として建造された「海警1401」も、未装備のまま「尖閣

専従海警船」として運用しています。

・また「海警2203」のように海軍のフリゲート艦から転用された海警船は、転籍時に、主砲やミサイルランチャー等の大型火器は撤去されていますが、37mm機関砲4基のみそのまま残置しています。

ただし、今月15日に交代した初認の「海警2204」には大砲のようなものが装備されていますが、その実体は不明のまま、17日の日中首脳会談の交渉材料のワンポイントなのか注目しているところです。

**【結論】**として偶発的なトラブルが起きないように派遣船隊の編成にも配慮し「武器使用」は自制しているものと認められるが、領海に接近する日本漁船に対しては、徹底的に追跡して排除するというポリシーから、その阻止行動はこれからも継続されると判断しました。

### 〔もう一人の主演「漁師さん」〕

中国海警局が最も注視して、徹底的にマークしているのが、仲間均石垣市議が所有の漁船「鶴丸」(9.1トン)。石垣出港時から数隻の巡視船艇に守られながら漁場に進出。中国海警船は南小島付近で待ち構えています。仲間市議が撮影した動画をTVやネットで発信してからは、あまり威圧的な行動は取らなくなったとのこと。他にも「恵美丸」「第一桜丸」「第八泰正丸」「ZENKOUMARU II」という地元漁船も、活動的に出漁しているが、毎回、恐怖を味わっているため、長時間の漁が出来ないでいます。中国政府報道官が尖閣に「偽装漁船」が侵入していると批判しているのを受けて、水産庁は尖閣海域に向かう漁船を臨検し、「漁業者以外の乗船は認めない」として尖閣周辺海域に近付くことを許可していません。特に「第一桜丸」オーナーの日本文化チャンネル桜の水島社長や取材クルーと乗船して尖閣に出漁することは許可されていません。しかし、こういった地元漁師さんの意欲的な活動も、海警船に妨害されて水揚げ量が減り、1回の出漁で燃料費等約30万円の赤字になるため、活動の継続が危ぶまれていましたが、昨年6月に400万円目標のクラウドファンディングを立ち上げたところ、2日で目標額をクリアし、ついに、6月30日の最終支援額は、3,238万2,000円。3,201人の支援者がありました。早速、7月10日早朝出港し、魚釣島と南小路周辺で2泊3日の漁労に従事しましたが、「海警2301」と「海警6404」の2隻が南小島付近で待ち受けて接近し、「鶴丸」が領海を出るまでの47時間余り領海に留まり、長期領海侵入の言い訳に悪用されているため、難しい立場に置かれていますが、昨年(2021)年末に電話で直接お話しした際にも「日本の領土・領海である尖閣諸島で安全に漁がしたい」という強い信念で出漁活動を牽引しています。

### 〔尖閣領海警備専従巡視船〕

ここからは、中国海警船から我が国固有の領土である尖閣諸島周辺海域の警備を担当している石垣海上保安部尖閣領海警備専従巡視船について紹介します。

「尖閣領海警備」の指揮は、石垣海上保安部ではなく、那覇の第十一管区海上保安本部が巡視船からの伝送された映像を確認しながら直接執っています。元々普天間・辺野古沖の警戒警備やマリンスポーツ事故等、巡視船艇の出動率の高い管区でしたので、「尖閣領海警備」に関しては全国から巡視船の支援を得て対応していましたが、尖閣諸島周辺海域における中国海警船の常態化に対応するため、5年前の2016年2月24日に「あぐに」「いぜな」の2隻が就役して、10隻の「尖閣領海警備専従巡視船」が完成しました。「尖閣領海警備専従巡視船」には、高速船でありながらも低速での安定性も重要視され、1000t型「くがみ」型が採用されました。船首に書かれているハルナンバーは、通し番号の「PL-11」からではなくて、区別して「PL-81～90」を割り当てられています。巡視船は、中期的な防衛力整備計画を元に建造している自衛艦と違って、不審船事案等の突発的な問題に対処するために「予備費」や「補正予算」で建造させているのが特徴です。短期契約の「予備費」や「補正予算」でいきなり発注されるため、造船所側も、ドックや工員を共用する海上自衛隊の艦艇建造・修理の工程管理にも苦勞されたと直接お聞きしました。

石垣海上保安部で巡視船「とかしき」を研修しましたが、尖閣上陸阻止や小型の漁船等を警護するためのRHIBボート等3隻の搭載艇のダビット設備が充実していました。また、今年(2022年)、フィリピン沿岸警備隊で就役した巡視船2隻は、このタイプをベースに建造されており、中国海警船は、東シナ海だけでなく、南シナ海でもこのタイプの巡視船と向き合うことになります。

専従巡視船の完成に合わせて整備された専用棧橋と今までの専用岸壁で、最大13隻の大型巡視船が係留可能です。同じタイプの巡視船が整然と並ぶ専用棧橋は壮観でした。専用棧橋の入り口以外にフェンスもなく、私が訪れた時には、隣接する岸壁に中国の豪華客船が横付けして見下ろされていました。尖閣領海警備の拠点「石垣海上保安部」の施設は、港湾施設の中に点在します。燃料等は、海上自衛隊のような専用の油船ではなく民間の設備に依存しています。また、島内には大型船の修理ができる浮きドック等の設備もないため、定期検査や大規模修理の場合は本土まで回航しないといけないのが弱点です。

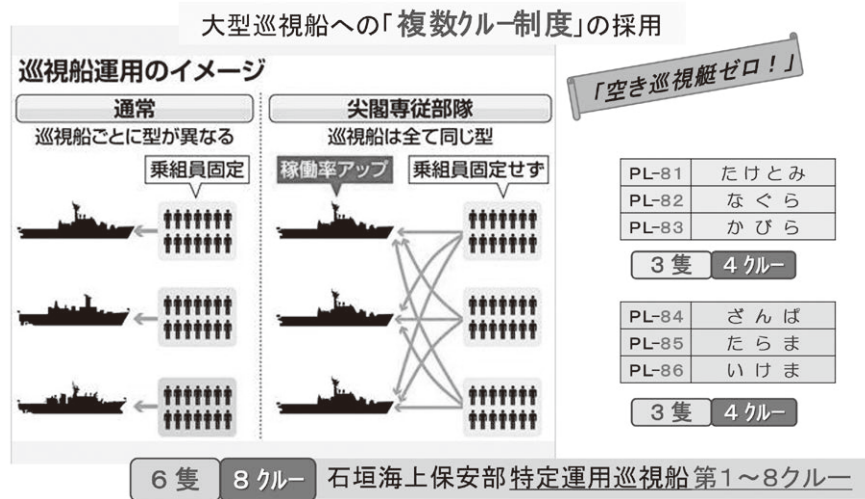
「尖閣警備専従巡視船」の最大の特徴は、初めて大型巡視船に採用された「複数クルー制」で、巡視船6隻を8クルーで運用し、10隻で12隻相当増強と表現されています。これによりクルーの休養のために可動船を停泊させなくてはならない無駄と乗員の負担を軽減させることが期待されていますが、整備の責任がやや不明確になり、故障の多発も懸念されています。予備クルーは、基本



休暇か休養待機になりますので、三管等他の管区から派遣されている乗組員は、飛行機の早割チケットで計画的に横浜等の自宅で休養していますが、島内で待機している際の乗員待機所等の施設も新設されました。なお、「いらぶ」「とかしき」「あぐに」「いぜな」の4隻は固定クルーで運用されています。また、自衛艦のC I C船務科に相当する「運用司令科」を新設し、領海警備のための情報を集約し、管区本部に映像等のデータを伝送して、直接指揮を受けていますが、甲板員として夜間見張りに立つ必要がないため、乗船経歴の少ない陸上勤務員等の配置が可能になり、増強された巡視船の甲板員確保の一助にもなっています。

さらに、定年の早い海上自衛官が定年後あるいは早期退職して、特技を活かして「60歳 + a まで働ける」海上保安官に再就職する事例も増えており、即戦力として評価も高いと聞いています。

尖閣領海警備は、専従巡視船以外の巡視船艇も動員して対応しています。石垣海上保安部所属の巡視船艇は、横浜海上保



安部を抜いて海上保安庁最大の保安部になりました。尖閣領海警備専従巡視船10隻以外の巡視船艇も石垣港を出港する小型漁船の直衛警備をしつつ尖閣周辺海域で警備活動することもあります。新しいヘリ搭載巡視船の予算も計上され、尖閣領海警備専従巡視船も増強中で2021年11月12日付で、最新鋭の「れいめい」型ヘリコプター搭載型巡視船「あさづき」が、石垣海上保安部に配属され、同月26日石垣港の専用岸壁に初入港しました。さらに、宮古海上保安署から格上げされた宮古海上保安部にも最新鋭の中型巡視船10隻が配備されましたが、専従巡視船より小回りが利いて漁船にも近付きやすいことから、尖閣周辺海域で操業する日本漁船の直衛船として重要な働きをしています。第十一管区海上保安本部直轄巡視船は、平成25年（2013年）に新編された那覇海上保安部に所属となり、ヘリ搭載巡視船2隻が尖閣領海警備専従巡視船として増強されました。

最後に、「正義仁愛」の精神で尖閣領海警備に日夜励んでいる第十一管区海上保安本部と石垣海上保安部にエールを送りたい。

前半の「尖閣」に関する基調講義は以上です。

「中国海警局に所属する船舶」の尖閣諸島接続水域派遣線表〔2019年〕

年	月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			
2019	1月	海警31241																																		
		海警1306																																		
		海警2306																																		
2月	海警31240																																			
	海警1307																																			
	海警2306																																			
3月	海警31240																																			
	海警1401																																			
	海警2306																																			
4月	海警31115																																			
	海警2306																																			
	海警2401																																			
5月	海警31115																																			
	海警2306																																			
	海警2308																																			
6月	海警31241																																			
	海警1307																																			
	海警2307																																			
7月	海警31241																																			
	海警2306																																			
	海警2146																																			
8月	海警31239																																			
	海警2101																																			
	海警2305																																			
9月	海警1305																																			
	海警1301																																			
	海警2501																																			
10月	海警2201																																			
	海警1102																																			
	海警2301																																			
11月	海警2201																																			
	海警1102																																			
	海警2301																																			
12月	海警1305																																			
	海警2501																																			
	海警6304																																			

「中国海警局に所属する船舶」の尖閣諸島接続水域派遣線表〔2020年〕

2020	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1月	海警1304	[派遣線]																												④1000-1140 ⑤1612-1742	
	海警2102	[派遣線]																													
	海警2502	[派遣線]																													
	海警6302	[派遣線]																													
	海警1305	[派遣線]																													
	海警2501	[派遣線]																													
2月	海警1305	[派遣線]																												⑤1000-1140 ⑥1000-1150	
	海警2501	[派遣線]																													
	海警6304	[派遣線]																													
	海警14603	[派遣線]																													
	海警2202	[派遣線]																													
	海警1301	[派遣線]																													
3月	海警2301	[派遣線]																												⑥1600-1745	
	海警6402	[派遣線]																													
	海警2201	[派遣線]																													
	海警1103	[派遣線]																													
	海警1401	[派遣線]																													
	海警2502	[派遣線]																													
4月	海警2201	[派遣線]																												⑥1000-1145	
	海警1103	[派遣線]																													
	海警1401	[派遣線]																													
	海警2502	[派遣線]																													
	海警1304	[派遣線]																													
	海警2102	[派遣線]																													
5月	海警1304	[派遣線]																												⑥1600-1800 ⑦1800~深夜 【漁船追跡】	
	海警2102	[派遣線]																													
	海警2501	[派遣線]																													
	海警14603	[派遣線]																													
	海警2202	[派遣線]																													
	海警2301	[派遣線]																													
6月	海警1302	[派遣線]																												⑥1013-1143 ⑦1530-1930 【漁船追跡】	
	海警1401	[派遣線]																													
	海警2202	[派遣線]																													
	海警2301	[派遣線]																													
	海警1302	[派遣線]																													
	海警1401	[派遣線]																													
7月	海警1304	[派遣線]																												②1600 ~③2200 【漁船追跡】 ④0225 ~⑤2200 【漁船追跡】 ⑥1000-1145	
	海警1103	[派遣線]																													
	海警2302	[派遣線]																													
	海警2502	[派遣線]																													
	海警2201	[派遣線]																													
	海警1102	[派遣線]																													
8月	海警1302	[派遣線]																												⑧0820-0945 ⑨0930-1055 ⑩0645-2000 【漁船追跡】	
	海警14603	[派遣線]																													
	海警2201	[派遣線]																													
	海警1102	[派遣線]																													
	海警1302	[派遣線]																													
	海警14603	[派遣線]																													
9月	海警1304	[派遣線]																												台風9号	
	海警1103	[派遣線]																													
	海警2301	[派遣線]																													
	海警2502	[派遣線]																													
	海警2203	[派遣線]																													
	海警1102	[派遣線]																													
10月	海警1302	[派遣線]																												⑥1045~⑦ 【漁船追跡】	
	海警2302	[派遣線]																													
	海警2202	[派遣線]																													
	海警1103	[派遣線]																													
	海警2102	[派遣線]																													
	海警2301	[派遣線]																													
11月	海警2202	[派遣線]																												⑥1615-1815 ⑦1230-1930 【漁船追跡】	
	海警1103	[派遣線]																													
	海警2102	[派遣線]																													
	海警2301	[派遣線]																													
	海警1303	[派遣線]																													
	海警1301	[派遣線]																													
12月	海警2502	[派遣線]																												⑥1600-1824 【漁船追跡】	
	海警14603	[派遣線]																													
	海警1302	[派遣線]																													
	海警2201	[派遣線]																													
	海警1103	[派遣線]																													
	海警1401	[派遣線]																													

「中国海警局に所属する船舶」の尖閣諸島接続水域派遣線表〔2021年〕

2021	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
1月	海警2201																															⑧0716-1615 【漁船活動】 ⑧0751-1625 【漁船活動】
	海警1103																															
	海警1401																															
	海警2302																															
	海警1305																															
	海警1301																															
2月	海警2503																															⑥0445-1313 【漁船活動】 ⑦0348-0910 【漁船活動】 ⑧1330-⑧0953 【漁船活動】 ⑧0415-1219 【漁船活動】 ⑧1016-⑧0900 【漁船活動】 ⑧0448-1107/1339-2010 【漁船活動】
	海警1305																															
	海警1301																															
	海警2503																															
	海警6303																															
	海警2203																															
3月	海警1103																															⑧1620-1745 【漁船活動】 ⑧0400-1300 【漁船活動】
	海警1401																															
	海警2302																															
	海警1303																															
	海警2502																															
	海警6402																															
4月	海警1301																															②1136-③1330 【漁船活動】 ⑧1415-1900 【漁船活動】 ⑧1015-1200
	海警2502																															
	海警6402																															
	海警2301																															
	海警2202																															
	海警1401																															
5月	海警2202																															⑧1140-⑧0840 【漁船活動】 ⑧0438-1824 【漁船活動】 ⑧0436-⑧0800 【漁船活動】 ⑧0141-0854-1045 【漁船活動】
	海警1401																															
	海警2301																															
	海警6302																															
	海警1305																															
	海警2302																															
6月	海警2502																															⑧1015-1200 【漁船活動】 ⑧0440-⑧1630 【漁船活動】 ⑧0232-1104 【漁船活動】
	海警6401																															
	海警2202																															
	海警1302																															
	海警2301																															
	海警6304																															
7月	海警2202																															⑧1154-⑧1100 【漁船活動】 ⑧1019-1201
	海警1302																															
	海警2301																															
	海警6304																															
	海警1305																															
	海警1401																															
8月	海警2502																															⑧1600-1758 【漁船活動】 ⑧1150-⑧1300 【漁船活動】 ⑧0240-1230 【漁船活動】
	海警6303																															
	海警2103																															
	海警1301																															
	海警2302																															
	海警6402																															
9月	海警2103																															⑧1000-1128
	海警1301																															
	海警2302																															
	海警6402																															
	海警1303																															
	海警1302																															
10月	海警2301																															⑧1000-1137
	海警6304																															
	海警1305																															
	海警1302																															
	海警2301																															
	海警6304																															
11月	海警1304																															⑧1000-1200 【漁船活動】 ⑧0351-⑧1317 【漁船活動】
	海警1301																															
	海警1302																															
	海警1401																															
	海警2203																															
	海警2301																															
12月	海警6303																															
	海警2203																															
	海警2301																															
	海警2302																															
	海警6303																															
	海警1303																															

「中国海警局に所属する船舶」の尖閣諸島接続水域派遣線表〔2022年〕

2022		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
1月	海警1303	[派遣]																															※1000-1200
	海警1301	[派遣]																															
	海警1401	[派遣]																															
	海警1302	[派遣]																															
	海警2203	[派遣]																															
	海警2102	[派遣]																															
2月	海警2203	春節休暇か?																															※0625-1025 【漁船追跡】
	海警2102	[派遣]																															
	海警2302	[派遣]																															
	海警2502	[派遣]																															
	海警1305	[派遣]																															
	海警1301	[派遣]																															
3月	海警1401	[派遣]																															※1626-1803
	海警1302	[派遣]																															
	海警1305	[派遣]																															
	海警1301	[派遣]																															
	海警1401	[派遣]																															
	海警1302	[派遣]																															
4月	海警1305	[派遣]																															※1000-1200
	海警1301	[派遣]																															
	海警1401	[派遣]																															
	海警1302	[派遣]																															
	海警2203	[派遣]																															
	海警2102	[派遣]																															
5月	海警2302	[派遣]																															※0945-1128
	海警14608	[派遣]																															
	海警2203	[派遣]																															
	海警2102	[派遣]																															
	海警2302	[派遣]																															
	海警1303	[派遣]																															
6月	海警1301	[派遣]																															※0657-※1200 【漁船追跡】 ※1030-1155
	海警1302	[派遣]																															
	海警1401	[派遣]																															
	海警2203	[派遣]																															
	海警2102	[派遣]																															
	海警2301	[派遣]																															
7月	海警2302	[派遣]																															※1042-1230
	海警2203	[派遣]																															
	海警2102	[派遣]																															
	海警2301	[派遣]																															
	海警2302	[派遣]																															
	海警1305	[派遣]																															
8月	海警1102	[派遣]																															※0433-72050 ※0220-0750 【漁船追跡】
	海警1302	[派遣]																															
	海警1401	[派遣]																															
	海警2103	[派遣]																															
	海警2302	[派遣]																															
	海警2102	[派遣]																															
9月	海警2502	[派遣]																															※1630-1824 71345-81808 ※0410-※1300 【漁船追跡】
	海警2103	[派遣]																															
	海警2301	[派遣]																															
	海警2102	[派遣]																															
	海警2502	[派遣]																															
	海警1303	[派遣]																															
10月	海警1102	[派遣]																															※1100-※2100 【漁船追跡】 ※1017-1200
	海警1103	[派遣]																															
	海警1302	[派遣]																															
	海警1303	[派遣]																															
	海警1102	[派遣]																															
	海警1103	[派遣]																															
9月	海警1303	[派遣]																															※1610-1800
	海警1102	[派遣]																															
	海警1103	[派遣]																															
	海警1302	[派遣]																															
	海警2203	[派遣]																															
	海警2301	[派遣]																															
10月	海警2302	[派遣]																															※0315-1200 【漁船追跡】
	海警2502	[派遣]																															
	海警2203	[派遣]																															
	海警2301	[派遣]																															
	海警2302	[派遣]																															
	海警2502	[派遣]																															
11月	海警1304	[派遣]																															※10315-1410 【漁船追跡】 ※1000-1200
	海警1102	[派遣]																															
	海警1103	[派遣]																															
	海警1302	[派遣]																															
	海警2204	[派遣]																															
	海警2102	[派遣]																															
12月	海警2301	[派遣]																															※1037-1220 ※0934-※0900 【漁船追跡】
	海警2502	[派遣]																															
	海警2204	[派遣]																															
	海警2102	[派遣]																															
	海警2301	[派遣]																															
	海警2502	[派遣]																															
11月	海警1304	[派遣]																															※0800-※1000 【漁船追跡】
	海警1102	[派遣]																															
	海警1103	[派遣]																															
	海警1302	[派遣]																															
	海警2204	[派遣]																															
	海警2102	[派遣]																															
12月	海警2301	[派遣]																															※1037-1220 ※0934-※0900 【漁船追跡】
	海警2502	[派遣]																															
	海警2204	[派遣]																															
	海警2102	[派遣]																															
	海警2301	[派遣]																															
	海警2502	[派遣]																															
11月	海警1304	[派遣]																															※0800-※1000 【漁船追跡】
	海警1301	[派遣]																															
	海警1302	[派遣]																															
	海警1303	[派遣]																															
	海警1401	[派遣]																															
	海警1401	[派遣]																															

## 「竹島 vs 獨島」日韓キャンペーン活動

### 〔竹島の地図〕

島根県沖の竹島（韓国名・独島(トクト)）は数年前まで国土地理院が発行する二万五千分の一の地図に記載はありませんでした。半世紀にわたる韓国の実効支配というのは、そういうことです。測量はできませんでしたが「わが国固有の領土」といいながらも、これではと地理院は米国の衛星データを利用し、竹島を構成する東西二島の標高を割り出し作製しました。

### 〔竹島の写真〕

会場に貼ってある竹島のポスターをご覧ください。この写真は、島根県出身の報道写真家桑原史成さんが1965年に命懸けで撮影したものです。「竹島」を撮るためテスト飛行の名目で軽飛行機をチャーター。操縦士も行ったことがないという孤島に向かい、5回も旋回し燃料が尽き、慶州の農道に不時着したそうです。日本人が撮影した写真なればこそ、島根県の広報誌だけでなく「竹島」に関する政府発行物に堂々と使用することができています。桑原史成(しせい)さんの名前は忘れないでください。



当日紹介しました「竹島vs獨島」日韓キャンペーン活動については、ネット等で検索して観ていただいた方が分かりやすいので、キーワードを紹介します。

### 〔獨島側キャンペーン〕 \*官・民の順

- \* 「獨島博物館」@鬱陵島〔1997年〕
- \* 韓国海軍揚陸艦LPH-6111「独島」命名〔2005年〕
- \* 韓国外交部動画「大韓民国の美しい領土独島」〔2014年〕
- ・ 「大韓航空」機内の座席モニターのフライト情報の地図画面の独島地名表記
- ・ 子供向けアニメ『独島守備隊・カンチ』～タコ一味から独島を守るアシカのカンチ～〔2016年〕
- ・ 韓国映画『パラサイト～半地下の家族』「ジェシカ・ソング」のメロディ〔2019年〕
- ・ 鬱陵島の海洋深層水を使用した韓国人気のスキンケア商品RoundLab1025『獨島乳液』『獨島クリーム』『獨島パック』等
- ・ 宝海醸造(韓国の酒類販売会社)海外輸出用独島ラベルの焼酎
- ・ 韓国MBC 8.15特別番組ドラマ『獨島守備隊』
- ・ 旧正月祭り(CNY Festival)企画「『独島(トクト)わが領土』知らせるキャンペーン」@シドニー〔2013年〕

[竹島側キャンペーン] \*官・民の順

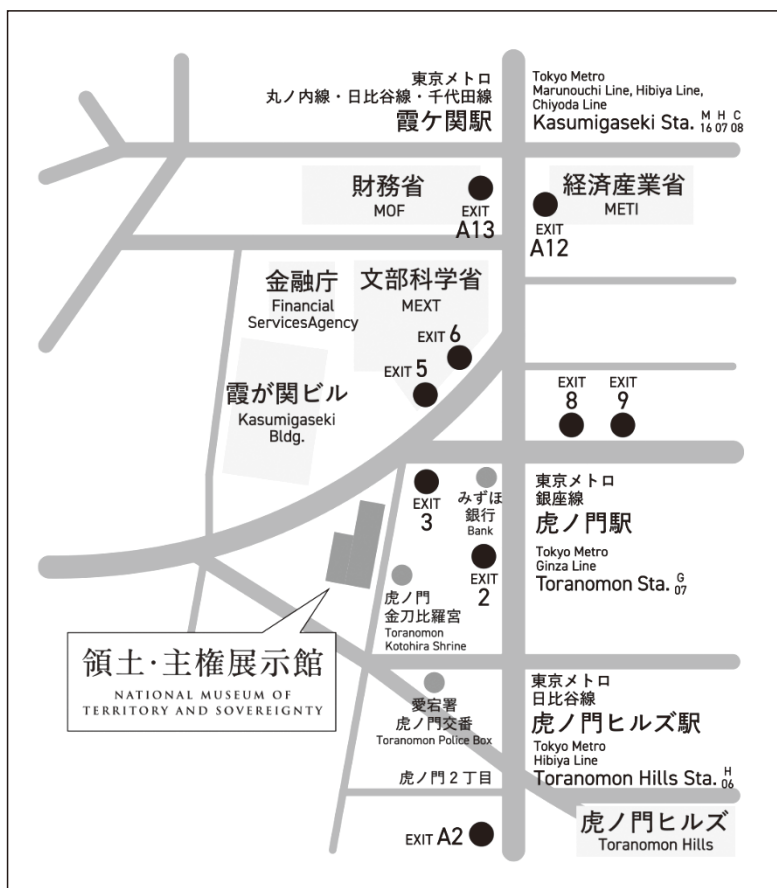
\* 島根県公文書センター「竹島資料室」@島根県庁第3分庁舎2階〔2007年〕

\* 島根県「Web竹島問題研究所」

- ・ 子供向けの絵本『メチのいた島』～語り伝える恵み豊かな島 竹島～〔2017年〕<sup>1</sup>  
最後に、我が国の領土等問題対策の取組を紹介します。

[「領土・主権展示館」]

安倍政権時の2013年に「領土・主権対策企画調整室」を設置。2018年1月に、日比谷公会堂に隣接した市政会館の地下に「領土・主権展示館」を開館して、「竹島問題及び尖閣諸島の情勢に関する資料」等を展示しました。「北方領土」に関する展示がないのは、スペースの関係と説明されましたが、プーチン大統領との「北方領土交渉」が進展していた時期でもありましたので、外交的な配慮があったのかもしれませんが。なお、母屋の「市政会館・日比谷公会堂」が耐震強度不足で移転することになり、2020年1月、虎ノ門のビルの1階にリニューアルオープンしました。モダンなレイアウトで、展示スペースも約7倍拡張されたことで「北方領土」の展示スペースも確保出来ました。皆様、是非とも一度は見学に行ってみて下さい。



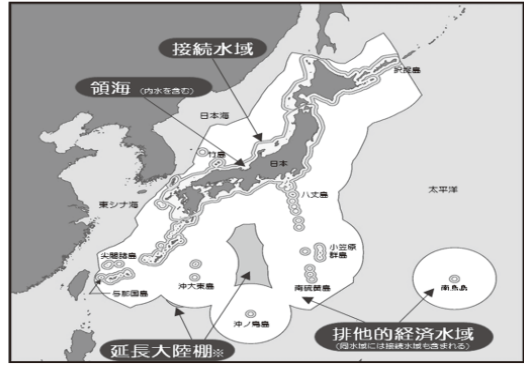
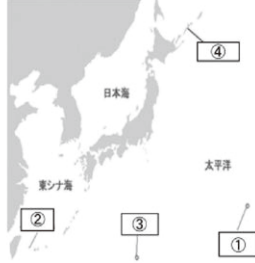
<sup>1</sup> メチ=ニホンアシカの隠岐の漁師の呼び名。杉原由美子著 山陰中央新報社発行。

『我が国の領土に関する素養試験』

【我が国領土の範囲】

1 我が国領土の東西南北端の島々の名称は？

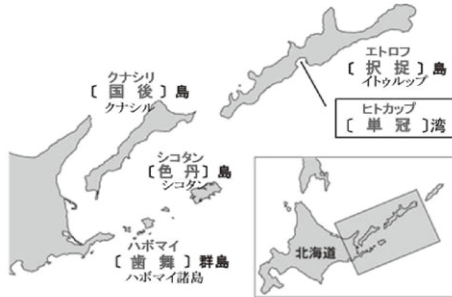
- ① 東端：〔南鳥〕島
- ② 西端：〔与那国〕島
- ③ 南端：〔沖ノ鳥〕島
- ④ 北端：〔エトロフ 択捉〕島



【出典：海上保安庁】

【北方領土】

1 北方領土の島々と真珠湾攻撃前に聯合艦隊が集結した湾の日本名は？



【北方領土】

2 次の島名の読み仮名とロシア名は？

- 樺太〔カラフト〕＝ロシア名；〔サハリン〕
  - 国後〔クナシリ〕
  - 択捉〔エトロフ〕
  - 歯舞〔ハボマイ〕
  - 色丹〔シコタン〕
- } 南千島  
} =ロシア名；南〔クリル〕

【北方領土】

3 「北方領土の日」は  
⇒ 2月〔 7 〕日

\* 由来は？

⇒ 〔日魯通好〕条約(1855年)締結の日



【北方領土問題に関する日本政府の立場は？】

北方領土は、日本国民が父祖〔伝来〕の地として受け継いできたもので、いまだかつて一度も〔外国〕の領土となることがない日本〔固有〕の領土です。この領土問題が存在するため、日本とロシアの間では〔平和〕条約が締結されないままとなっています。

【竹島】

1 竹島に関する問いについて

- 竹島の住所は？  
⇒ 〔島根〕県  
〔隠岐〕郡  
〔隠岐〕の島町竹島
- 竹島の韓国呼称名は？  
⇒ 発音〔ドクト〕  
⇒ 漢字〔獨島〕



【竹島】

1 竹島に関する問いについて

- 竹島の国際的名称(フランス語名)は？  
⇒ 〔リアンクール〕岩礁  
Liancourt Rocks  
\* 由来は、同島を発見した船名  
⇒ 〔俗称〕「リヤんこ島」
- 東島の別称は？  
⇒ 〔女〕島
- 竹島(獨島)の韓国の住所「鬱陵」郡の韓国語読みは？  
⇒ 〔ウルルン〕郡





**【竹島】**

○ 「竹島の日」(県条例)はいつ?  
⇒ 2月〔 22 〕日

\* 由来は?  
⇒ 「本県所属隠岐島司ノ所管」とされた  
〔島根〕県告示第40号(1905年)公布日




三月十七日は、  
竹島の日  
非難せられた  
存続の危機に  
我輩は日本を  
取り戻す。

政府広報  
近日は国旗を掲げよう。

**【竹島】**


○ 日韓領有主張の代表的な根拠は  
⇒ 〔日〕「〔ラスク〕書簡(1951年)」



独島、もしくは竹島またはリアンクール岩に関して、この首段無人の島嶼は、我々の情報によれば、韓国の一部として扱われたことは一度もなく、1905年頃から日本の島根県隠岐島庁の管轄下にあります。この島は、韓国によって権利の主張がなされていることが、これまで明らかになっていません。

米国防務次官補

〔韓〕「〔李承晩〕ライン(1952年)」



李承晩  
韓国大統領

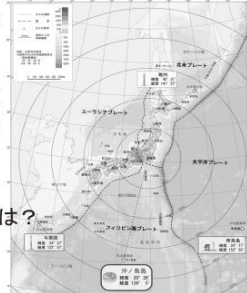
**【竹島領土問題に関する日本の基本的な方針は?】**

竹島は、〔歴史〕的事実に照らしても、かつ〔国際〕法上も明らかに日本〔固有〕の領土です。  
韓国による竹島の占拠は、〔国際〕法上何ら根拠がないまま行われている〔不法〕占拠であり、韓国がこのような〔不法〕占拠に基づいて竹島に対して行いかなる措置も法的な〔正当〕性を有するものではありません。  
日本は竹島の領有権をめぐる問題について、〔国際〕法にのっとり、冷静かつ〔平和〕的に紛争を解決する考えです。

**【尖閣諸島】**

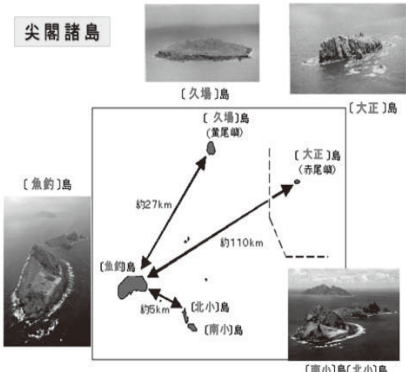
4 尖閣諸島に関する問いについて

① 尖閣諸島の住所:  
〔沖縄〕県〔石垣〕市  
登野城〔尖閣〕2390~94



② 尖閣・魚釣島の中国呼称名は?  
⇒ 〔釣魚島(台)〕

③ 尖閣諸島の島々の名称は?



尖閣諸島

〔久場〕島  
〔大正〕島  
〔魚釣〕島  
〔北小〕島  
〔南小〕島

**【尖閣諸島に対する日本政府の領有権の根拠は?】**

尖閣諸島は、第二次世界大戦後、日本の領土を法的に確認した1951年の〔サンフランシスコ〕平和条約第2条に基づいて日本が放棄した領土には含まれず、同条約第3条に基づいて〔沖縄〕の一部としてアメリカ合衆国の施政下に置かれました。1972年発効の〔沖縄〕返還協定によって日本に施政権が返還された地域にも含まれています。

尖閣諸島は、〔1885〕(明治18)年から日本政府が沖縄県当局を通ずる等の方法により再三にわたり現地調査を行い、単に尖閣諸島が〔無人〕島であるだけでなく、どの国の〔支配〕が及んでいる痕跡がないことを慎重に確認した上で、〔1895〕(明治28)年1月14日に現地に標杭を建設する旨の閣議決定を行って、正式に日本の領土に編入しました。この行為は、国際法上、正当に領有権を取得するためのやり方に合致しています〔先占〕の法理)。

尖閣諸島は、日清戦争終結に伴う1895年4月締結の〔下関〕条約第2条に基づき、日本が清国から割譲を受けた台湾及び澎湖諸島には含まれません。



1972年沖縄返還協定により、地図上の直線で囲まれた区域内のすべての島が返還された。この対象区域に尖閣諸島も含まれている。

【出典: 外務省】



講義中の中澤准教授



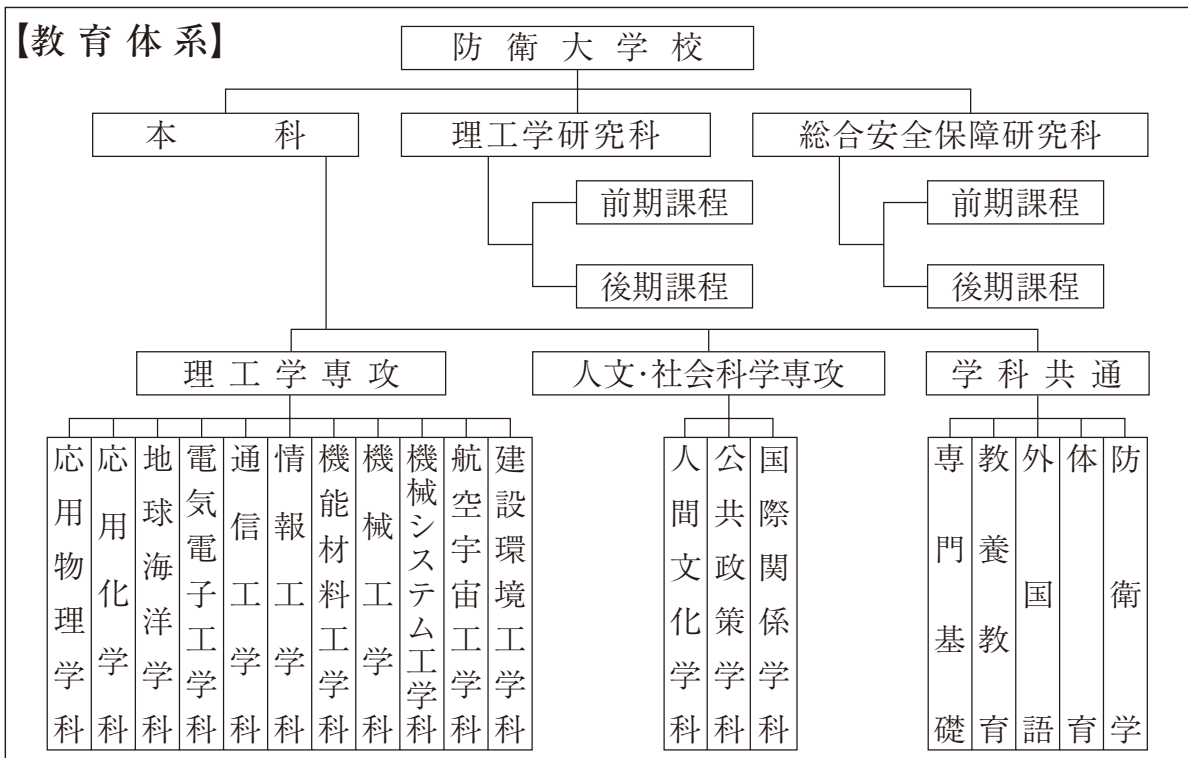
# 防衛大学の教育の概要

防衛大学校本科の教育課程は、文部科学省の定める大学設置基準に準拠し、教養教育・外国語・体育・専門基礎の科目と専門科目（人文・社会科学専攻及び理工学専攻）を一般大学と同じように教育するとともに、本校独自の防衛学（防衛に関する学術分野）の教育を行います。その他にも国内外の著名人による全校的な課外講演や、内外の教授による学科単位の特別講義、授業の一環としての施設見学などがあります。

1、2学年で専門基礎を履修するとともに、2学年からは各学科に分かれ専門科目を履修し、4学年で指導を受けて卒業論文を提出します。教養教育、外国語、体育及び防衛学は1～4学年にわたって履修します。

また、防衛大学校研究科は、「自衛隊の任務遂行に必要な高度の理論と応用についての知識並びにこれらに関する研究能力を修得させるための教育を行う。」ことを目的としており、その教育内容は、大学院設置基準の修士課程・博士課程に準拠しています。

本科及び研究科の教育課程は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が行う審査に合格すれば、学位が授与されます。



防衛大学校教授による 現代の安全保障講座  
(第28回)

令和5年3月31日発行 非売品

編集発行 全国防衛協会連合会  
〒162-0844 東京都新宿区市谷八幡町13番地  
東京洋服会館9階  
電話 03-5579-8348  
FAX 03-5579-8349  
URL <https://www.ajda.jp>  
E-mail [jim@ajda.jp](mailto:jim@ajda.jp)



印刷 株式会社日刊スポーツPRESS  
〒104-0045 東京都中央区築地3-5-10  
電話 03-5550-8210  
URL <https://www.nikkansp.co.jp/>